



メタルプロダクツは1965年に山形県新庄市で創業した鉄骨パーツの専門メーカー。建築用軽量鉄骨・二次部材（胴縁）を主に施工図面作成から加工、塗装までの一貫製造を強みとしている。その特化した技術力には定評があり、東京2020オリンピック・パラリンピックでは、会場施設の二次部材やキャットウォークの製作にも携わった。



渡邊 社長

今の真室川町には2009年1月に全面移転した。当初10人程だった社員は現在45人にまで増え、農業や建設業以外に基幹産業のない地域にあつて積極的な雇用に貢献。18年に経営革新計画の山形県知事承認とともに、地域未来牽引企業にも選定された。

海外人材の採用も大きな特徴だ。

メタルプロダクツ

92

鉄構事業で山形から世界へ

外国人材戦力に拠点展開

事務所にはインドネシアとモルドバを結ぶモニターを設置



立。現在は8人体制で図面を基にした加工データの制作を行っている。

モルドバに15年に設立した「メタルプロダクツ・ヨーロッパ」は、渡邊社長がバイオマス発電関連のODAプロジェクトで現地入りしたことを契機に研修生2人を受け入れたことがきっかけとなり誕生した。現在は3人体制で図面作成に取り組むほか、同国初の日本

これまでに4カ国いる。帰国後、習得技術から技能実習生や埋もれさせることのないよう、研修生、高度外国人材を受け入れ、点をインドネシアとモルドバに整備した。インドネシアには同社で働いた実習生を社長とする現地法人を設

会社データ

- ▽創業 1965年4月
- ▽本社 山形県最上郡真室川町平岡432
- ▽社長 渡邊進氏
- ▽資本金 1千万円
- ▽売上高 10億円（21年2月期）
- ▽従業員数 45人
- ▽事業概要 鉄構事業

「当社で身に着けた技術を生かし、自国で活躍する姿は日本にいる我々にとっても大きな刺激となっている」と話す渡邊社長。今後も鉄構事業を軸に、その活動領域を世界に広げたい。

（小室 慎）

経済産業省が選定する「地域未来牽引企業」のうち、鉄鋼・非鉄金属関連の企業を紹介します。